

ホーム名：グループホームなかよし					
自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関、リビングに掲示するとともにグループホーム10原則も掲示し介護の心得としている。	玄関に掲げられた「楽しい会話やゆったりとした時間」を謳った理念は職員全体に共有されホームの中に溶け込んでいる。	理念が実践されている今日に於いても、職員等は日頃から、常に理念の意識付けをもった支援にあたられている。この姿勢を堅持されて頂きたい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており前年度2年間は施設長が本部役員を務めるなどし地域の方にグループホームをより知ってもらうなど又入居者の方々も以前から地域行事などに参加したり中学生の職業体験受け入れを継続して行っている	施設長自らが自治会での本部長を務めるなどして積極的に地域の中に溶け込む姿勢がみられる。近所の方々にも本ホームの設立の意義も理解され、又ボランティア演奏会の受け入れもしている。	地域の中で互いに理解し助け合って、地域の中に根差したホームである為に、これからもあらゆる機会を通じて交流を続けてられる事を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の職場体験受け入れや地域の作品展などに入居者様の作品を出展させていただいたり、地域の方から相談を受けるなど地域に向けて取り組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は奇数月の第4月曜日と定めており家族代表、地域包括、民生委員、地域住民の方に出席いただき入居者様の普段の様子をみてもらいながらホームの取り組み、報告、外部の情報などを得たりサービスの向上に活かすようにしている。	2ヵ月に一度の運営推進会議では各関係者から多くの提案が出され意見の活発な交換がなされている。季節毎の行事や新しい取り組みになど実践へ向けての努力がなされている。	運営推進会議での報告、提案、修正など受け、決定された新しい案は速やかに実践されている。この体制は今後とも維持されて欲しい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	地域包括連絡会など研修に参加したり運営推進会議などで市町村担当者に実情やケアサービスの取り組みを伝え、協力関係を築くように取り組んでいます。	事業所からの市町村への緊密な関係を維持していく為に、ホームでの活動状況を報告したり、アドバイスを受けてりしながら連絡し合っている。	市町村への積極的な働き掛けは恒久的なものとしての維持継続を図りたい。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	身体拘束排除理念をリビングに掲げており職員一同身体拘束がもたらす多くの弊害を理解しており、出来る限り身体拘束を行わないことを心掛けています。玄関の施錠に関しては開口時チャイムで知らせるようにし状況に応じて臨機応変に対応している。	身体拘束はしていないし職員もその弊害を深く理解し共有しあっている。施錠については外部からの侵入は出来ない。内側からは職員の見守りによって入居者の安全は確保されている。	職員の一入ひとり見守りが身体拘束を防ぐ基本でもあり、たゆまぬ努力をお願いしたい。
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	尊厳を重視したケアを心掛け、常に意識をもち対応している。マニュアルを常備して共有の意識をもっている。		

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>現在、社会福祉協議会とも相談の上、日常生活自立支援事業（金銭管理）を活用している。以前には成年後見人制度、弁護士が財産管理、社会福祉士が後見人となり終末介護まで行う。また管理者は市民後見人養成講座を修了している。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居手続きをマニュアル化するなど、文書と口頭での十分な説明を心がけ、理解、納得、了解を図っている。</p>		
10	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情マニュアルを作成し、苦情相談記録を作成する体制を確立している。玄関に意見箱を設置し公共の苦情窓口も連絡先を明示している。月1回介護相談員に訪問していただき意見の反映にもつとめています。又運営推進会議だけでなく、ご家族が来訪時などに会話を大切にしています。</p>	<p>家族の事業所に対する信頼は厚い。意見箱は玄関に設置され家族の要望が反映されるよう努力がなされているが、少人数経営の利点が生かされ家族訪問時の会話などから直接要望を取り入れる場合が多い。本ホームならではの直接会話は、即運営に反映されている。</p>	<p>意見箱は設置されているが利用はない。入居者や家族のホームに対する信頼の現れといえる。これからも信頼される支援をお願いしたい。</p>
11	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>日頃から代表者、管理者は職員とコミュニケーションを取り易い環境にあり申し送りやミーティングなど以外でも意見を出し合いより良い運営を心掛けています。</p>	<p>代表者や管理者は、職員との日常会話から意見や感じた事などを聞きそれをどう運営に反映されていくかが話し合われている。</p>	<p>日常的な小さな出来事の話し合いも記録されると何かにつけて便利と思われれます。</p>
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>資格習得による手当や処遇改善手当、リーダー手当を支給。個人が得意とする分野など信頼して任せることにより、やりがいや意欲、責任を持ち仕事をしている。また希望休を取り入れ勤務表の作成。就業規則の明確化や法定外労災の加入など、労働条件の整備に努めている。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修に参加したスタッフには、レポートを作成させると共に、スタッフ全員に伝えさせています。介護福祉士取得を目指すスタッフのサポートにも取り組んでいます。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>高齢者サポートセンター主催のグループホーム連絡会や昨年から設立された市内グループホーム連絡会にも加入し研修や情報交換又は同業者で食事に出かけるなどネットワークは良好です。</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>ご本人、ご家族同伴で見学してもらい、ご希望により体験入所をしていただき、納得の上、入居していただけるよう心かけています。</p> <p>スタッフは多くの情報収集し理解して受け止める努力をしています。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居者・家族の今日に至るまでの苦しみや現在持っている不安を理解するようにしている。家族と問題を共有する姿勢を理解してもらえるように、丁寧に説明するようにしている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>その時の必要なサービスをよく理解できるように「聞くこと」に重点にしたケアを行っている。そして利用者や家族の思いを受け止め理解し、その時に最も最適な支援を提案するように心かけています。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>共に生活し、食事についても一緒に同じ物を食べ日常生活の中で喜怒哀楽を感じ合い、本人の人生経験の知恵などを学んだり、その時の状況に応じお互いに支えあうケアを行っている。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ご家族にも行事等や運営員会議など毎月の便りで呼びかけ、一緒に過ごす機会を設けるようにし状況、状態の把握をしていただいたり、共に本人を支えあえる関係に心がけている。職員も家族と気軽に話が出来る信頼関係を大切にし、一緒に支えあう関係を構築している。</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>個々の様子や状況、状態により馴染みの場所に行くなど臨機応変に対応している。また行事や誕生日会などご家族の参加をしてもらったりしている。長年入居しておられる方は、もうこの場所、人が馴染みやね～とされています。</p>	<p>職員と家族が話し合う機会は多く入居者の情報が得られやすい。職員は入居者一人ひとりの馴染みの場所や人についてはよく熟知している、可能な限り馴染みの場所に行けるような配慮がなされている。</p>	<p>馴染みの人に来てもらう事や、入居者にとっての思い出話に花を咲かすも楽しいもの。こういった支援も是非お願いしたい。</p>
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>少人数なので利用者とスタッフがひとつの話題で盛り上がることも多く、利用者同士の会話も弾むよう心がけている。</p> <p>日常生活を常に見守り、利用者さんの状況に合わせて席替えをしたりして孤立しない環境作りに努めている。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>特養に移られて3年以上になった方が亡くなられた時ご家族様から連絡いただき葬儀にも参列させていただき、現在も年賀状の交換が続いている</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	小さいホームならではの利点である一人ひとりの会話を大切にすることにより希望や意向を把握し、日々の暮らしにつながっている	職員と入居者は家族同然の親しみをもって接している。入居者一人ひとりの心の動きを感じ取り職員同士がそれを共有しあうといった共同生活が営まれている。	入居者各人の個性に合った支援をし、小人数ホームの利点を存分に発揮されて下さい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	入居前にキーパーソンとなる家族から生活歴や利用していた施設や病院などから情報収集し記録し又ホームの暮らしの中で知りえた情報を職員で共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活を共に過ごす中でコミュニケーションを大切に、ご本人の有する力の把握に努め心身状況も日々の観察（観察（顔色、食欲、医療機関の連携、バイタルチェック）などにより把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人については発する言動や様子、出来ることを見極め希望と家族の希望、関係者などそれぞれの意見を反映しより良い生活が送れるように作成している。	少人数の特性をフルに生かし職員が一人ひとりの希望や、してほしい事などを把握している。家族の要望があれば職員全体で話し合う。介護計画は3ヵ月毎の見直しをし常に入居者と家族の意向に添うようにしている。	定期的な見直しは変化していく入居者の状況に対応しやすい。この方針を堅持されるよう希望する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録チェック表や介護日誌に、日々の様子やケアの実践を個別記録することにより、申し送りを徹底してスタッフが情報を共有して、ケアプランの確認、見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズや状況希望に応じてデイケア、終末ケア（訪問医療、訪問看護）、訪問マッサージ、カットやヘアカラーなど柔軟なサービス支援に取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のふれあい広場に参加したり、昔趣味で描かれた絵画、刺繍、レース編みなど校区の作品展に出品し一緒に観に行っている。地域の方がボランティアで琴や銭太鼓などしてくださるなど地域社会との繋がりを大切にしています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に、本人・及び家族の要望により他の医師による診察を希望するのであればそのようにしている。専門的な診療は専門医療機関を、かぜなどの日常的な診療にはホーム協力医を活用するなど状況に合わせた診療態勢をとっている。	契約時には協力医である山本内科の診察を求めているが本人や家族の意向により従来のかかりつけ医の往診もある。協力医は月一回の往診があり現在4名が受診している。総合病院は東香里病院を利用している。歯科については入居者の状況により往診を求めている。	かかりつけ医については専門医療の問題もあり画一的な対応は難しいが話し合いの継続はお願いしたい。

31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>職員は日頃から入居者の状態など変化を把握し、医療連携による訪問看護師（週1回）に状態を伝えたり、通所しているデイケア看護師にも報告し必要に応じて相談や助言もいただいている。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時は施設長、管理者自らが責任を持って病院関係者及びご家族との連絡を密に取り合い、情報交換や相談に努めている。</p>		
33	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化や終末期の問題は入居当時から家族さんからの要望を聞き、当施設の看取り介護の考え方、看取り介護の視点、医療体制の理解など看取りに関する指針により同意書ももらっている。同意書はいつでも変更可能で家族さんの思いに添えるよう取り組む姿勢を取っている</p>	<p>家族や本人が入居から看取りまでをとの要望があれば、それに応える体制は整えられている。家族には看取りに関する詳しい説明がなされ同意をえている。今日までにも事業所は終末期から看取りまでを経験され、懇切な支援が最期までなされている。</p>	<p>これからも、人生の最期を迎えようとしている入居者に尊厳と愛情ある介護を提供し、家族が安心して任せられる心温まる支援を続けていただきたい。</p>
34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>年2回の災害緊急時対応連絡先にホーム提携医師看護師の自宅、携帯連絡先も記載しており24時間連絡可能な体制が出来ており、又</p>		
35	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回消防の協力を得て訓練を実施し災害用携帯個人カードを避難経路に設置しており又隣家の駐車場を一時避難場所として使用させていただくことになっています。</p>	<p>年2回の避難訓練は消防署の協力と助言のもとで実施されてる。職員は入居者一人ひとりを安全な戸外へと避難誘導している。その際個人カードを付けさせて身元を分かるようにしている。また、スプリングクレーや消火器も設置などの日頃の防災対策も充分である。</p>	<p>一時の避難場所が常に利用可能かどうか、また別の避難場所の検討もされてみてはどうか。</p>

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を大切に一人一人に合わせた言葉使いや対応に気をつけ、排泄や、入浴時など自尊心に配慮しケアに努めています。	入居者と職員は互いに信頼関係にあり愛称で呼びあつたりする時もある。特に排泄時は心ある配慮がなされ、そこにはプライバシーを損なうような雰囲気はなく家族同様の生活が見受けられた。	人生の先輩者に対する敬意は自然な日頃の感覚から滲みでてくるもの。これからも入居者の身になっての支援をお願いしたい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中からも思いや希望を察し自己決定できるように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間など基本的な時間以外は自由でマイペースに過ごせるようにしており、本人の希望、状況に応じて 個別に散歩に出掛けるなど臨機応変に対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服は好みの物を着てもらい、季節感などアドバイスをしています。訪問理容サービスの利用。希望に応じて毛染めの支援。季節行事には和服をきてお化粧の支援などを行っています		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみになるように献立に希望を取り入れたたり見た目にも楽しい盛り付けにしてバランスの良い食事の提供を心掛けている。以前は利用者さんと一緒に準備や、片付けをしていたが、高齢による体力低下や認知症レベルにより難しくなつては	朝食にご飯を取り入れるなどし高齢者に喜ばれる食事を考えている。調理は職員が行い美味しそうな栄養のバランスがとれた献立にしてある。午前と午後の食間時には、コーヒーやお茶などが嗜好飲料としても出されて水分補給も行なわれている。	入居者の希望されるものがあれば、出きる範囲で献立に加えて頂きたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	声かけによる水分補給を促し水分確保してもらっている。一人ひとりの状態に合わせた食事携帯に変えています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの力量に応じた口腔ケアの声かけ支援を毎食後行っています。義歯は毎夜義歯洗浄液にて保管しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表の活用、排泄パターンを把握し声かけ、誘導をしています。排泄サインを見逃さないようにして気持ち良く自然に排泄出来るように支援しています。	一人でトイレに行ける人が殆どであるが職員の見守り誘導はなされている。トイレ時にはそれとなく声掛けをし支援をしている。車椅子の人には全面介助がなされている。	入居者が自立で排泄が出来るような運動も取り入れて頂きたい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は雑穀米や麦を入れている。野菜中心にして、また昼食には毎日ヨーグルトを取り入れたり、便秘がちの方には朝にチアシードを入れた牛乳を飲んで頂いている。家族さんからのサプリメントの支援をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的に、週2回の入浴と夏季は間にシャワー浴をとり入れている。希望があれば毎日入浴可能な体制を取っている。 草蒲湯やゆず湯、入浴剤など安らぐ入浴を支援している。	週2回の入浴が行われている。入浴時には職員はいつも入居者に優しく話しかけ入浴を楽しいものとしている。洗髪もそのつど行われ清潔な生活が営まれている。	入居者にとって入浴が楽しいものであると思ってもらえるような語りかけをして貰いたい。

46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節による寝具の入れ替えや布団クーリーナーで清潔を保ち、シーツ・パジャマは清潔にし、日中の活動を通し昼夜逆転しない生活リズムを作っている。 冬期も床暖房により足の冷えもなく		
47	○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	どのスタッフでも対応できるように服薬毎に分包している。薬の説明書もスタッフ全員が把握している。薬が少なくすむように、医師に相談しながら対応している。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ること、やりたいことを見出し皆さんとの楽しい会話や、カルタあそびやビーチボールバレーで盛り上がったり、洗濯たたみ、絵を描くことが好きな方にはスケッチブックを用意したりと生き生きと過ごせるように支援しています		
49 18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気の良い日などには個々の状態や希望により積極的に散歩に出掛けたり地域の交流会や季節行事の花見などに出掛けている。日常的には市の医療証を利用しデイケアに通っている。	近くの公園に出かけるなどの外出は入居者本人の希望に添うように支援している。デイケアを兼ねた外出も本ホームならではの春の桜の時期などは車で出かける時もあり入居者にとって楽しみにもなっている。	外出してもすぐに戻りたがる入居者もいるという。出来る限り開放感を感じ取ってもらえるような工夫と支援もお願いしたい。
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	以前は少額のお金を所持して買い物に出かけていた方も入居10年近くなり徐々にADL、認知症機能の低下など希望されなくなっている。少額の金銭はご家族などと話し合い所持していただいている。希望や力量に応じて支援している。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	以前は手紙や電話の支援もしていたが、年齢と共に連絡が途絶えたり、しているのが現実である。希望があれば電話も手紙も支援している。		
52 19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、リビングに季節の壁かけやタペストリー、額、花を生けたり皆さんで作った季節作品などを飾ったり夏はグリーンカーテンと季節感を採り入れています。又リビングは床暖房、空気清浄機、ペアガラス、2重窓となっており寒暖の影響もうけにくく居心地よく過ごせるようにしています。	玄関に入ると入居者が描いた大きい日本画が掲げられている。リビングには入居者と職員が共同で制作した作品が展示され和やかな雰囲気にもなっている。季節感を出す工夫もなされてリビングはまるで自分の家にいるよう生活感覚である。いつもリビングの中には笑い声や歌声も聞こえる。入居者にとって楽しくも安心して過ごせる場である。	快適で明るいリビングは皆の寛ぎの場。職員の入居者に対する親しみのある支援はこれからも継続して下さい。
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、テーブル椅子、ソファや居室で思い思いに過ごされています。		
54 20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人、ご家族と相談し、仏壇やそれぞれ思い思いの物、馴染みの物を持ってきている。全居室が南向きでペアガラス、2重窓になっている。又各居室に湿度計を設置しており快適に暮らせるように支援しています。	自分だけの居室には各人の好みや思い出の生活用品が持ち込まれ自分らしく落ち着いて生活できるようにになっている。全ての部屋は2重窓のため適温に保たれている。採光も充分であり明るく清潔である。	入居者にとって居室こそ自分の世界の全てである。「ここはこうしたらどう？」と話し掛けてみたりして、各人の好みに合った居室作りにこれからも惜しまない支援をお願いしたい。
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人ひとりの力量に応じて、見守りや手助けを行い又居室やトイレなどは、それぞれ名札などでわかり易くできるだけ自立した生活が送れるようにしています。		

V アウトカム項目		
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができている	○ ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働いている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない